

第 5 回市民参画部会 要点録

日時：平成 28 年 10 月 6 日（木）18：00～20：00

場所：日野市役所 504 会議室

出席委員：小倉委員	東京農工大学名誉教授
鶴田委員	
濱田委員	
井上委員	
森川委員	
横山委員	東京農工大学
中西委員	樹木・環境ネットワーク協会
高荒委員	環境保全課
石黒委員	環境保全課
藤田委員	環境保全課
高木委員	緑と清流課
新井委員	緑と清流課
岡澤委員	区画整理課
富田委員	都市農業振興課
奥野委員	学校課
清水委員	学校課
加藤委員	生涯学習課

※敬称略

次第

- 1.開会・あいさつ
- 2.確認事項
 - (1) 平成 28 年度 市民参画部会のスケジュールについて
 - (2) 浅川アユまつり 出店目的の確認
 - (3) 浅川アユまつりの概要について
- 3.議事
 - 浅川アユまつり 企画の検討
- 4.その他

配付資料

- 資料 1：平成 28 年度市民参画部会のスケジュール
資料 2：浅川アユまつり 出店目的の確認
資料 3：浅川アユまつり 実施概要
資料 4：浅川アユまつり 企画の検討
参考資料 1：第 1 回グループ会議打合せ要点録
参考資料 2：第 2 回グループ会議打合せ要点録
参考資料 3：浅川アユまつり 企画案の一覧表

ワークショップの概要

目的

市民参画部会では市民へ生物多様性の普及を実施していく。
生物多様性を市民へ普及するにあたり、今後の活動の場となるフィールドを「みどり」「水辺」「生きもの」「ひと」の4つの視点で決定する。

ワークショップテーマ

「市民に伝えたい・知ってほしい日野市の生物多様性」

内容

市民に伝えたい・知ってほしい生物多様性の内容と、関連する取組みを班（みどり・水辺・生きもの・ひと）ごとにそれぞれの視点で検討する。
伝えたい・知ってほしい「生物多様性の内容」を明らかにし、「場所」を想定した上で伝える方法を企画として発表する。

次回の市民参画部会では勉強会を行い、生物多様性を市民に伝える方法を具体的に確認し、部会のメンバーである市民と市職員で日野市の大切な生物多様性の意識を共有する。

ワークショップの結果

みどり班

環境ごとに生物多様性の特徴が異なっていることが指摘され、身近な場所が候補として多く挙げられた。

環境	活動の場、生物多様性と関連する取組み	代表的な場所
市内の公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>下草刈りできれいにする</u> ・ 樹名プレートを付ける ・ <u>入りやすい環境にする</u> ・ 学習 ・ 自然公園と児童公園 	大木島公園 中央公園（イベントができる） 仲田の森公園 万願寺中央公園
丘陵	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生遷移進んでいる ・ 昔の稜線 ・ 木本性 ・ 雑木林 ・ 里山 ・ シュンランが昔はよく採れた ・ 丘陵のハケ本来の植物が多い 	黒川清流公園 南平丘陵公園 新堂ヶ谷戸
河川敷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来植物、水に近い植物 ・ <u>用水路の水辺植物</u> ・ 草地が多い ・ <u>虫が多いことは、環境としていいことでは</u> ・ <u>絶対に宅地化しない環境</u> 	向島親水路
農地・田畑	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>災害時の避難</u> ・ <u>身近にあるリンゴ、ブルーベリー</u> ・ <u>害獣対策</u> <u>（ハクビシン、アライグマ、タヌキ、鳥）</u> ・ 作物を勉強する ・ 虫などの関与、サイクル 	

水辺班

良いところだけではなく、マイナス面を知ることで現状を理解する大切さが意見として挙げられた。座学よりも現場で知ることが重要視された。

現状・伝えたい・知って欲しい

- ・ マイナス面を知ってもらう必要がある
- ・ 良いところも残っている →どのように残していくか
- ・ 残っているところをどうやって残していけるか！
- ・ 用水・河川紹介される所が限られている
- ・ 「現実」を見る、知る
- ・ 生き物の種類、数減っている！！
- ・ 市内には、水・森ともいいところがたくさん！！
- ・ 中央線より上流は○、下流は△×
- ・ 魚が減っている →自然淘汰だけでなく外圧！
- ・ 多様性 →管理大切（行政の理解が必要）
- ・ 生きものへの配慮が以前のまま
- ・ ビオトープ設計：植物は OK でも生き物に対する対応×

目的・将来像

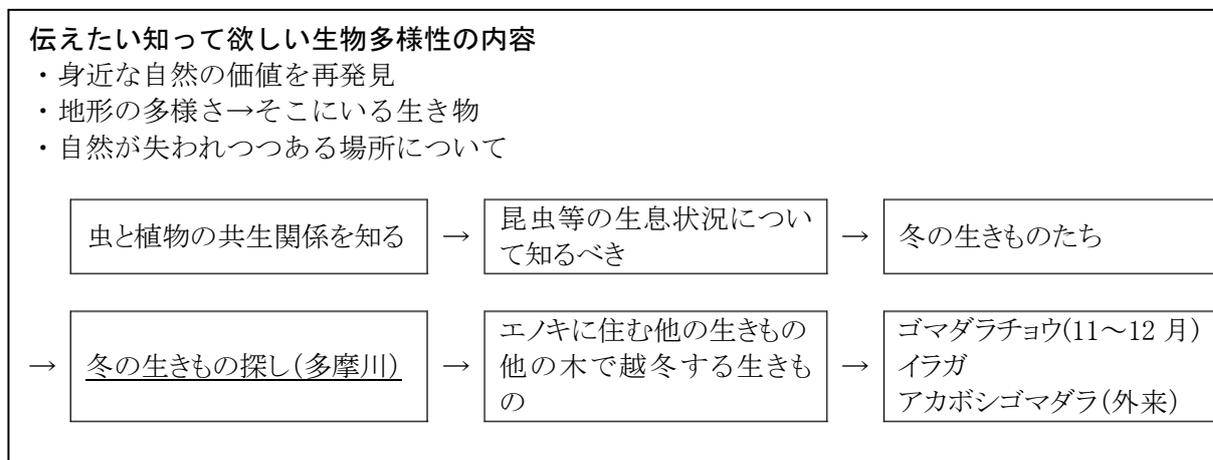
- ・ 予算化
- ・ 市民団体の動き・圧力 →予算化
- ・ 地下浸透整備 →区画整理との関係も必要
- ・ 市も大変にならなくて簡単に管理できる環境づくり
- ・ 貴重な生物多様性をまずは行政が認識 ←市民の協力をもらいながら

だからこんな事がしたい！ だからどういう事をしたい？

- ・ 良いところ、駄目なところを比較で見せる
- ・ 現地で市民の人に知ってもらう
- ・ 虫や魚がここにいるけどここには居ない etc.
- ・ 良いところ&悪いところ紹介
- ・ 良⇔悪対比で伝える

生きもの班

身近な生物多様性を感じることをテーマに、多摩川でできる冬の生きもの探しが企画として検討された。



ひと班

明確な目標設定を起点として、具体的なプログラムとして企画が提案された。

